



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館

小さな好きから 大きな夢中へ ミュージアムパーク

A・MUSEUM

[ア・ミュージアム]

2026.1.15

vol.119



かっこいい鳥、かわいい鳥、おしゃれな鳥、
きばつ すがた みりよく
奇抜な鳥。鳥の姿は実に多様で、魅力にあふ
れています。あなたのお気に入りの鳥を見つ
けてみませんか？

CONTENTS

- 1 企画展紹介 鳥の世界へようこそ！
— 知れば 知るほど おもしろい —
- 2 特集 博物館職員の活動日記⑨／館長コラム
- 3 研究報告1 幻の「ヤスイゴケ」を探して
／MCの小さな発見
- 4 研究報告2 新属新種のジュラ紀植物を発表
／おさかな通信
- 5 なるほど博物館／収蔵品紹介
- 6 トピックス
- 7 いちおしトピックス！／今後の企画展紹介

鳥の世界へようこそ! — 知れば 知るほど おもしろい —

会期/ 2026年2月28日(土) ~ 2026年6月7日(日)



朝、窓の外から聞こえてくるあの鳴き声。玄関を出ると電線にとまるその姿。そう、鳥です。鳥は私たちがよく目にする身近な生きものです。今回の企画展では、鳥の形態や生態、多様性や人との関わりなど、さまざまな視点から鳥を紹介します。あなたの知らない鳥の秘密や面白さをたっぷりと味わってください。個性豊かで魅力的なたくさんの鳥たちが、展示室で待っています! さあ、鳥の世界へようこそ! (教育課 佐野拓哉)

みどころ1

鳥の魅力もりだくさん!

カッコいい鳥、かわいい鳥、おしゃれな鳥など、魅力的な鳥のはく製が大集合! また、まるで生きているかのように美しい当館自慢のコレクションを集めたコーナーも!



ルリビタキ

クマタカ

ヒオドシジュケイ

みどころ2

鳥の体や行動のヒミツがわかる!

翼、くちばし、あしなど、鳥の種類によってちがう体のようすをじっくりと見ることができます。また、鳥が生きるための「びっくり行動」のヒミツも知ることができます。



海風に乗って飛ぶコアホウドリ



このくちばし、どう使うの?

みどころ3

鳥を感じる体験コーナー!

鳥の重さってどれくらい? どんな声で鳴くの? さわって、聞いて、体感してみましょう。

さらに、展示室にしながら鳥の観察を体験できるコーナーも!



さえするウグイス

どんな鳥が見られるかな?



みどころ4

いつものあの子と、ちょっとちがう!?

所変われば鳥変わる!? 同じ種の鳥でも、地域によって見た目などがちがうものを「亜種」といいます。現地に行かずとも、そのちがいを比べることができます。



亜種ヒヨドリ



亜種インガキヒヨドリ

展示室で確かめてみよう!



展示構成

- 鳥ってどんな生きもの?
- 日本で見られるさまざまな鳥たち
- 鳥と人が織り成す文化

- 鳥のすごい体と行動
- 鳥を守る
- 野鳥観察に出かけよう!



イラスト: 栗崎キント

茨城県の山々には、かつてはさまざまな鉱山があったことをご存じでしょうか。当館では、日立鉱山（日立市）や高取鉱山（城里町）などから産出した鉱物標本を文献とともに整理してきました。しかし、1950年代までマンガン鉱石を採掘していた鷹峰鉱山については、当館での収蔵標本数は少なく、また詳細な文献記録もほとんどないまま歴史に埋もれようとしていました。そこで、当館の令和6～7年度総合調査で、この鉱山の採掘跡を確認し、その周辺に残されている鉱石の集積場（ズリ）から鉱物を採集して、確認された鉱物種の記録を標本とともに後世に残すことにしました。

文献によると鷹峰鉱山には約30の坑道の入口（坑口）があり、これらは城里町を中心に、常陸大宮市や栃木県茂木町の一部など広範囲に散在しています。マンガン鉱石は八溝山地をつくるチャートや頁岩層に挟まれて分布していて、層状マンガン鉱床とよばれています。

現地調査では、まず坑口の位置を確認するため、文献記録を頼りに藪をかき分けながら沢治いを進みます。そして、採掘跡らしき人工的で不自然な地形を見つけたら、調査員で手分けして周囲の斜面をうろつい

て坑口跡やズリをひたすら探します。マンガン鉱石は、表面は真っ黒でずっしり重いのが目印です。しかし実際には、文献記録の位置図はかなり不正確で、また廃坑からあまりに時間がたっていることから、坑口跡やズリが現存しているとは限りません。

斜面にぽっかり開いた坑口跡（ときには崩落して埋もれていることも…）を見つけたら、その位置を記録し、周辺でマンガン鉱石を探します。マンガン鉱石をハンマーで割ると、断面は黒色のこともあれば、ピンク色、茶色、ときには緑色のこともあります。これらは軟マンガン鉱や、菱マンガン鉱、ハウスマン鉱、テフロ石、緑マンガン鉱などさまざまですが、現地で鉱物種を判別することは難しいため、鉱石を博物館に持ち帰ります。

これまでの現地調査で、15の坑口跡を訪れ、うち10の坑口跡を確認して鉱石を採集しています。今後残る坑口跡の調査を進めつつ、採集資料を詳しく調べてマンガン鉱物の鉱物種を判別し、その成果を当館の研究報告などで記録に残したいと考えています。

（企画課 小池 渉）



斜面で確認された旧坑口（鷹峰鉱山・川上坑）



マンガン鉱石を割ってみると…

館長コラム by director Yokoyama クマとどんぐり

この秋は、熊が市街地に出没し、毎日のように熊による人的被害がテレビなどで報道されています。今年の秋は、熊が好んで食べるどんぐりが凶作であり、そのことが市街地に出没している一因と考えられます。市街地周辺には、柿やリンゴなど熊を引き寄せる食べ物があり、また住宅の庭先にも熊が食べる食料があります。熊が出没する地域の住民は、家から出ることに對して危険を感じるなど、日常生活に支障をきたしています。このため、地域住民の生命と財産を守るため、当該自治体では熊出沒への対応に追われ、自衛隊や警察などに協力を要請するなど、大変深刻な事態となっています。

さて、当館で10月から開催している企画展のテーマは「どんぐり」です。4年ほど前から本企画展の準備を進めていたのですが、図らずとも現在に即したテーマとなっています。加えて、昆虫が運ぶ病原菌によりナラ枯れという現象が各地で発生し、どんぐりの木が枯れている現状も紹介しています。

近頃の熊による人的被害の状況も踏まえ、どんぐりと自然や生活との関わりを通して、いろいろな人が自然について学ぶ場となってもらえれば幸いです。



幻の「ヤスイゴケ」を探して

コケ植物は小さくてやわらかいため、化石として残ることは稀です。これまでに日本で知られている絶滅したコケの化石はわずか5種類。そのうちの1つ「ヤスイゴケ」は、日本で最初の女性博士として知られる保井コノ博士が記載しました。

ヤスイゴケは愛知県のおよそ500万年前にできた亜炭という柔らかい石の中から発見され、1928年にコケ植物化石の新種として発表されました。しかし、論文に記載されたタイプ標本(新種の根拠となる標本)は、その後、行方不明になっています。タイプ標本は、亜炭を薄切りにしたプレパラート標本です。そこで私たちは、保井博士が教授を務めていたお茶の水女子大学や、博士の標本が収められている東京大学などを調査しました。お茶の水女子大学には博士の遺品の一部が保管されており、その中にはプレパラート標本も含まれていました。特別に見せていただいたところ、残念ながら教材用の野菜の切片でした。東京大学には博士のタイプ標本が収められているため、期待し

て調査に行きましたが、残念ながらヤスイゴケ以外のタイプ標本しかありませんでした。最後の頼みの綱となった国立科学博物館には、博士が収集した約2000点の標本が収められています。その中から、ヤスイゴケの産地である愛知県の標本を中心に調べた結果、ようやく、コケ植物によく似た断片を含む標本が見つかりました。さらに、標本には記載論文の図版の番号と同じ数字が薄く鉛筆書きで記されていました。

プレパラート標本を顕微鏡で詳しく観察すると、コケ植物の茎の断面に似た構造が確認できました。断面の大きさや、水を運ぶ管と思われる木部細胞の形態は、ヤスイゴケの記載と共通した特徴がみられる一方で、ヤスイゴケの特徴である皮層の大型厚壁細胞が確認できず、周囲に葉の存在も確認できないなど、不安要素もありました。当初は、ヤスイゴケの新しいタイプ標本(レクトタイプやネオタイプ)として報告することを考えていましたが、慎重に検討した結果、残念ながら、これらの標本をタイプ標本として記載することは断念し、探索の経過のみを論文にまとめました。ヤスイゴケのタイプ標本は依然行方不明のままですが、この論文が、今後の探索の助けになることを願っています。

(教育課 鷗沢美穂子)



図1：ヤスイゴケの可能性のある標本(所蔵：国立科学博物館)

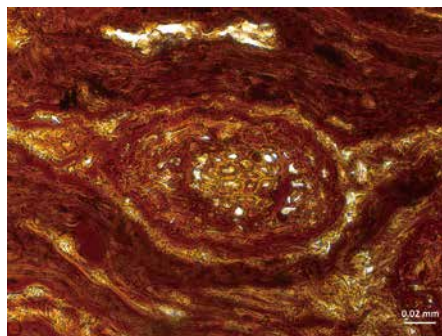


図2：標本の顕微鏡写真(コケ植物の茎の断面に似ている)

論文：鷗沢美穂子・片桐知之、2025. 保井コノ博士により新種記載されたコケ植物化石ヤスイゴケの学名と標本について、植物研究雑誌, 100 (5): 436-445.



ミュージアムコミュニケーター

MCの小さな発見

カドハリイー希少な湿地の宝物ー

みなさんはカドハリイという植物を知っていますか？現在地球上で、茨城県稲敷市の妙岐ノ鼻でしか見るのできないたいへん希少な植物です。湿地に育つ多年草で、6月から9月に小さな花が咲き、茎の先端に長楕円形の小穂(花が集まったもの)をつけます。

カドハリイは、干拓(かんたく)などの開発や、水際環境の変化による湿地の消滅などにより絶滅が危惧されており、2022年に「国内希少野生動植物種」に指定され、採集が禁止されています。妙岐ノ鼻の湿原では、2019年からヨシ焼き(火入れ)が再開され、カドハリイを含む動植物の保護活動が継続的に行われています。カドハリイが展示されている第5展示室では、絶滅危惧種の動植物や、それらの保護活動をご紹介します。カドハリイのような動植物を守ることにについて考えるきっかけになれば幸いです。

(ミュージアムコミュニケーター 木下春菜)



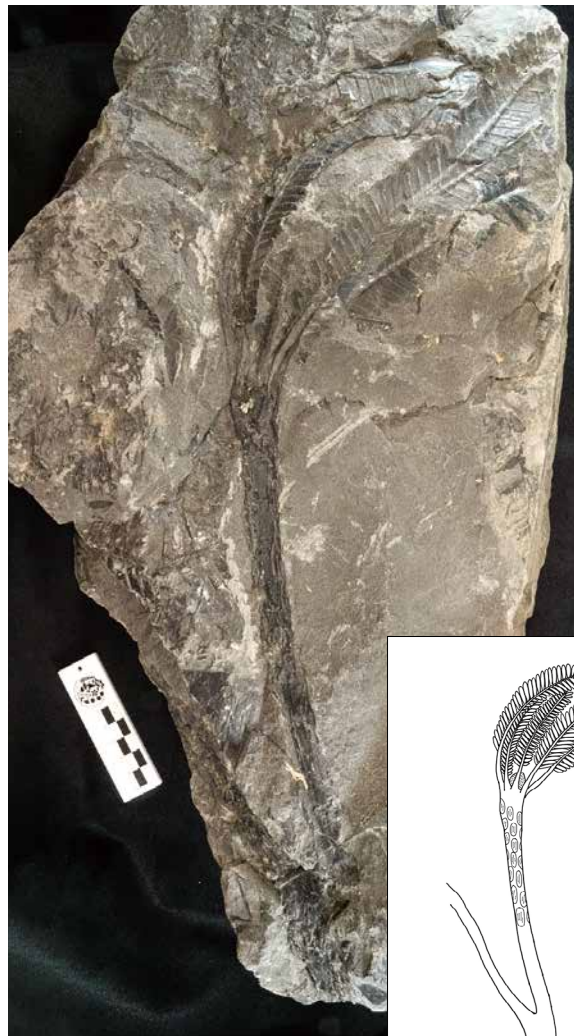
第5展示室に展示されているカドハリイ

新属新種のジュラ紀植物を発表

2025年12月に新属・新種として発表した化石植物は2010年と2024年に地元の化石収集家・研究者の平宗雄さんが南相馬市原町区信田沢で採集したものです。平氏はこれまでも数多くの化石を発見し学名に名前が冠されたものもあります。今回の論文に使用した最も重要な化石は2010年に採集されたものですが、東日本大震災の際に平氏の自宅が津波被害にあったため流されて行方不明になってしまいました。しかし、この化石の重要性を認識していた平氏は避難所生活の中で必死に探し続け、奇跡的に田んぼの中に落ちていたのを発見したということです。その後これらの化石は、中生代の植物化石を専門とする筆者に預けられ、ドイツのクリスチャン・ポット博士と共に研究を行ってきました。

平氏が発見した化石は、枝分かれした茎の先端に数枚の葉が付いており、その中心には生殖器官も確認できるというものです。葉の部分はタイロフィルムという名前でこれまでも知られていましたが、どのような茎や枝にどのように付いているかは不明でした。植物全体に葉の属名・種名を使うことはできないので、今回は新属・新種として命名しました。その名前はオーハニエラ・タイロフォリア *Ohaniella ptilofolia* で、筆者が大学時代に所属した研究室の大先輩で古植物学者の大花民子博士の名を冠しました。ちなみに同じ産地からは2022年に別の新属新種も発表されており、こちらは研究室の恩師木村達明博士の名前を冠してキムリエラと名付けました。新属・新種の植物はベネチテス類という裸子植物で、葉の形は現生のソテツ類に似ていますが、中生代のみに生育していた絶滅した植

物です。ベネチテス類は恐竜化石とともに発見されることも多く、恐竜の糞化石の中からも見つかっています。恐竜たちの大好物だったのでは、と私は考えています。
(教育課 滝本秀夫)



オーハニエラのタイプ標本(所蔵:南相馬市博物館)
図:太田有香



論文: Christian Pott and Hideo Takimoto. 2025. *Ohaniella* gen. nov. (Bennettitales), another new whole-plant bennettitalean from the Oxfordian (Upper Jurassic) Tochikubo Formation of Shidazawa, Minamisōma, Fukushima Prefecture, Northeast Japan. *Paleontological Research*, vol. 29,

おさかな通信

小さな魚の大きな影響

カダヤシはもともと北アメリカ原産の魚で、日本には1916年に「日本脳炎を媒介する蚊を減らす」という目的で導入されました。当初はカダヤシが蚊の幼虫を食べる習性があることから蚊の発生を抑える効果が期待されていました。

しかし、カダヤシは繁殖力が非常に強く、特に在来種であるメダカと競合し、結果として、メダカが絶滅危惧種に選定されるまで数を減らす要因の一つになりました。国内では本州以南の広い範囲に分布し、茨城県でも霞ヶ浦や利根川流域などで確認されています。カダヤシは2006年に特定外来生物に指定され、飼育や放流などが法律により禁止されています。

現在、第3展示室の円柱水槽では、環境省に飼育の許可を得てカダヤシの展示をしています。病気を防ぐための対策が予期せぬ結果を招いた例として、この展示が人と自然のかかわりについて考えるきっかけになると幸いです。(水系担当 安藤雅輝)



カダヤシが産まれる瞬間(赤丸部分)



なるほど 博物館

いばレックスとコティランが
自然に関する情報を
わかりやすくお伝えします。

「この魚は、縦じま？ 横じま？どっち？」

(教育課 北澤佑子) イラスト: ツク之助



そうそう。魚の頭と尾を結ぶラインが縦、腹と背中を結ぶラインが横と定義されているんだよ。
じゃあ、この魚(右の写真)は縦じまかな？それとも横じまかな？



そのとおり！カゴカキダイという名前の魚だよ。黄色いからだに5本の黒い縦じまが特徴なんだ。
ほかに、しま模様をした魚がいっぱいいるよ。縦じまか横じまかを考えながら観察してみるのも楽しいね。

そうだね！魚の模様に注目して、さまざまな魚をじっくり観察してみよう。

しま模様のおさかな、もっと知りたい！ほかに、どんな模様があるのかな？いろいろなおさかなを見てみたいな！



イシダイ

このおさかな(左の写真)、しましまの模様がすてきだね！

そうだね！イシダイという名前の魚だよ。成長すると全長80cm、体重10kgを超えるものもいるんだ。
白黒の横じまがはっきりと見えているね。

横じまなの？縦じまに見えるけれど、どうして？

魚の模様を見るときは決まりがあるんだ。こうすると(右の写真)とわかりやすいかな。魚の頭を上、尾を下にしたときのしまの向きで縦じま、横じまとするよ。

へえ〜、そうなんだ！たしかに、横じまだ！
泳いでるとき姿で見るんじゃないんだね。



カゴカキダイ

うーん。頭を上にして考えてみると…「縦じま」だ！



イシダイ(頭を上、
尾を下にしたとき)



しゅうぞう ひんしょうかい 収蔵品紹介

個性的なイタチ科動物の剥製

イタチ科の動物は世界に約65種生息しており、地上や樹上で活動するイタチやテンのなかま、穴掘りが得意なアナグマのなかま、水中を泳ぎ回るカワウソのなかまなど実に多様です。当館では国内外16種の剥製を所蔵していますが、獲物を捕えるようすを再現したものや、今にも動き出しそうなものなどとても個性的です。なかでもコブラの猛毒に耐性があり、ライオンに咬まれても背中分厚い皮で無事なことで知られるラーテルが、よだれを垂らしながらミツバチの巣を襲うようすを再現した剥製は傑作で、さまざまな展示に引っ張りだこです。(資料課 後藤優介)



ヘビと戦うニホンイタチの剥製



気品漂うムナジロテンの剥製



無敵動物ラーテルの剥製

トピックス

①

ポケット学芸員(web版)を開始しました！

令和7年10月から、新たに「ポケット学芸員 web 版」(以下、web 版)の運用を開始しました。アプリがなくとも、展示物付近に設置してあるQRコードを読み取ることによって利用できます。

web 版は、アプリをインストールして利用できる展示ガイドシステム「ポケット学芸員」(以下、アプリ版)の利便性を高めたものです。スマートフォンの中に学芸員がいるかのように、テキストや画像を通して基礎知識や専門的情報、補足情報を、簡単に得ることができます。

web 版では、多言語化に一般的な翻訳機能を使うことで対応しています。また、植物、動物、化石、岩石、

宇宙などの分野別、展示場所別などで検索する機能も備えています。このほか、家庭や学校などのパソコンでもweb 版は利用することができるので、事前学習などにも役立ちます。ぜひ、展示物の見学にご活用ください。

(資料課 前島 清)

※アプリ版もweb版もどちらも同じ説明ですが、音声ガイドは、web版にはありません。



ポケット学芸員 (web版) イメージ

トピックス

②

当館のデザイン、坂東市で発見！

このたび、茨城県坂東市で、当館のデザインが、地域の新しい発信に使われることになりました。

まず、圏央道 坂東 PA (内回り)に新しくできた「ハイウェイスタンプ」です。高速道路を利用される方が押しつけて楽しめる記念スタンプで、当館のシンボルである松花江マンモスの姿が描かれています。このスタンプのデザインは、坂東市内の小学生(4年生から6年生)を対象に募集されたもので、坂東市の魅力(市のキャラクターや観光名所など)をほのぼのとした表現で表す発想や工夫が詰まったデザインになっています。

さらに、坂東市のコミュニティバス「坂東号」でも当館のデザインが見られます。バスには松花江マンモスや当

館のシンボルマークのほか、坂東市在住の漫画家・豚もさんの作品「茨城ごじゃっぺカルテット」のキャラクターも描かれ、見ているだけでも楽しいデザインになっています。

バスやハイウェイスタンプを通して、子どもから大人まで当館の魅力にふれ、気軽に楽しんでいただければ嬉しいです。今後も地域と一緒に、当館の魅力を発信していきます。

(企画課 川村詩音)



坂東市PAハイウェイスタンプ(内回り)



コミュニティバス「坂東号」

トピックス

③

昆虫の森を再生しています！

当館野外施設の昆虫の森は、開館前から薪炭材として利用されてきたコナラ・クヌギなどを中心とした里山林です。樹木は30年以上の年月が経ち、高齢化、高木化し、林床が暗くなり若い木が育ちにくい環境となっています。また、高齢の太い木にはナラ枯れを引き起こすカシノナガキクイムシの影響もあり、今後、この森はコナラやクヌギの太木が枯れ、常緑樹中心の単純な森になってしまうことが予想されました。

そこで、今後約10年間をかけて昆虫の森の木を伐り、萌芽を更新させたり苗を植えたりして森を若返らせる取り組みを始めました。昨年度に行われたイベント「昆虫の森を再生しよう」では参加者が森に生えていたコナラやクヌギの芽生え

をポットに移して苗をつくりました。そして、その後行われたイベント「どんぐりを観察しよう」では、参加者の方と育てた苗の植樹をしました。

これからも地域の方とともに、昆虫がたくさん見られる森に再生していきたいと思います。(教育課 豊崎賢二)



クヌギ・コナラの苗の植樹のようす



授乳室をベビールームにリニューアル

当館の授乳室は、これまで保護者の入室は女性のみでしたが、男性の育児参加も進む中、「男性も入れる授乳室が欲しい。」という声を多くいただくようになりました。

そういった来館者の声をうけ、授乳室を男女共用で利用できる「ベビールーム」としてリニューアルを行いました。室内には、おむつ替えベッドのほか、立ったままおむつ替えができるスタンド、男性も利用できる授乳用ソファを設置しています。



授乳室のようす

一方で女性専用の授乳用個室を設け、女性が安心して授乳できるスペースも確保しました。「博物館は楽しそうだけど、パパだけだと子どもの対応が難しそう」、「子どもと行きたいけど、授乳室が使えないのは不安。ママがいないと博物館には行けないなあ…」と諦めていたみなさん!!これで安心してお子様と博物館を楽しめます。

館内には恐竜の展示、野外には花木、昆虫と魅力がいっぱいです。

「見る」、「触る」、「体験する」ができる博物館は小さなお子様にとっても貴重な体験となるはずです。

是非、この機会にご来館ください。

(管理課 平川正樹)



女性専用スペースもあります

今後の企画展紹介

あつまれ!海の骨なし動物 — めちゃ不思議で多様なすがた —

2026年7月18日(土)~2026年9月27日(日)

海にはさまざまな動物が暮らしていますが、そのほとんどは背骨をもたない「骨なし動物」です。よく知られたサンゴ、クラゲ、巻貝、二枚貝、イカ、タコ、エビ、カニ、ウニ、ヒトデなどのほかにも一般にあまり馴染みのない種類も多く、驚くべき独特の世界をつくりあげています。

今回、海の骨なし動物をテーマに、企画展を開催します。展示では、その多様な形態や生態、人との関わり、海の環境問題について紹介していきます。標本だけでなく、映像や生体展示も活用してその魅力を伝えていく予定です。ぜひ海の骨なし動物たちのめちゃ不思議な世界を感じていただければ幸いです。(資料課 池澤広美)



ミズクラゲ



アオウミウシ

編集 後記

カワセミって、魚をくわえて雌にプレゼントすることでプロポーズするんですよ。雄が必死に魚を運ぶ姿は、まるで指輪を渡している人間のプロポーズみたいで、思わず応援したくなります。次回の企画展では、鳥たちのこんな驚きの生態をたっぷり紹介します。ぜひ、鳥たちの世界をのぞきにきてください! (S.K.)

【開館時間】 9:30から17:00まで (入館は16:30まで)

【休館日】 毎週月曜日

※休館日は異なる場合がありますので、事前にホームページ等でご確認ください。

URL <https://www.nat.museum.ibk.ed.jp/>



ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会

入館料が無料 & 限定イベント多数!

家族会員 4,000円 個人会員 3,000円
子ども会員 1,000円 賛助会員 10,000円

※特典: イベントへの参加、ショップ・レストランでの割引

ミュージアムパーク茨城県自然博物館は、誰もが親しみ、誰もが楽しめるア・ミュージアム(アミューズメント+ミュージアム)をめざしています。